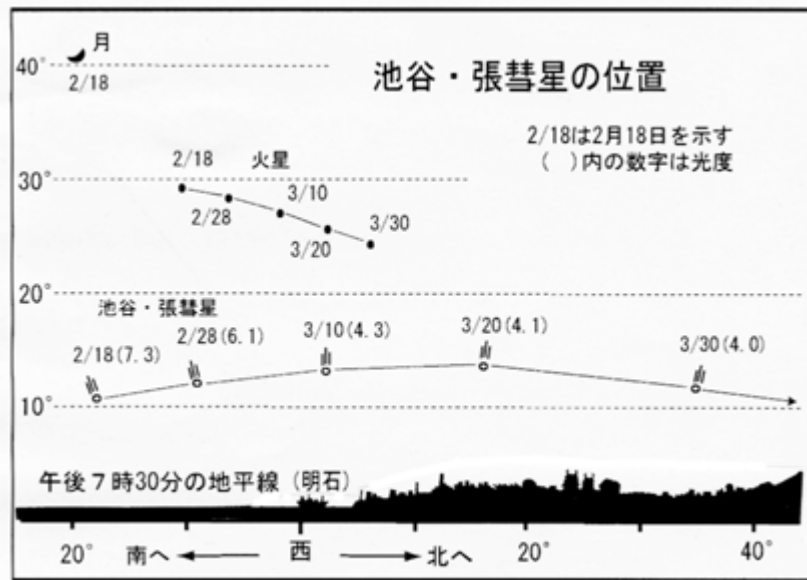




天文ニュース(No.175)

池谷・張彗星が夕空に見える 2002年2月20日発行



2月1日に静岡県池谷の池谷薫氏と中国・河南(ハイナン)省の張大慶(チャンデキン)氏が、くじら座の南に明るさ9等星でそれぞれ独立に発見した新彗星が、3月末に4等級の明るさになり、日の入り後の西空に小望遠鏡や双眼鏡で見えると予想されています。

この彗星は、「池谷・張彗星」(認識符号C/2002C1)と命名されました。

その後の観測で、3月18日には、太陽に0.508天文単位(7600万km)まで近づき、4月28日には、地球に0.409天文単位(6120万

km)まで接近することがわかりました。

この彗星の位置は、2月中はくじら座の西を北上し、3月にはうお座に入り夕方の西空高くなって、3月下旬には、うお座の北で光度4等になると予報されています。

4月上旬は、アンドロメダ座の中を北上し、4月中旬にはカシオペア座の西を光度5等級で移動します。

3月下旬には、月明かりがあるために観測条件はよくありませんが、小望遠鏡や双眼鏡で見ることができるでしょう。

なお、池谷・張彗星の発見者である池谷薫さんは、これまでも5個の彗星を発見しているベテラン彗星ハンターで、特に1965年10月下旬から11月上旬に雄大な尾を見せた「池谷・関彗星」の発見者として有名です。

